

脳卒中後の不適切な神経可塑性の システムの理解

**Maladaptive neuroplasticity after stroke:
systems-level insights into central post-stroke pain**

長坂 和明 先生

新潟医療福祉大学

リハビリテーション学部・講師



2026年2月20日（金）16:30-18:00
講義実習棟302室（杉谷キャンパス）

脳卒中などによって神経系に損傷が生じると、身体適応の過程として神経系には可塑的变化が誘導されます。しかしながら、この可塑性に伴う機能変化は必ずしも有益なものばかりではありません。臨床的には、脳卒中後に麻痺などの運動機能の回復がみられた後、しばしば痛みが出現することが知られています。このような痛みの神経基盤はいまだ十分に解明されておらず、また薬物療法が奏功しにくいことから、临床上の大きな課題となっています。

本セミナーでは、当該痛みを対象としたモデル動物を用いた基礎研究について紹介します。とくに、げっ歯類および非ヒト霊長類を用いた病態モデルの構築から、それらを対象とした機能・構造イメージングや薬理的検証によって得られた最近の知見を取り上げます。限局的な脳損傷によって神経系のシステムがどのようにダイナミックに再編成されるのかについて、その意義も含めて議論したいと考えています。

（講演は日本語で、スライドは英語です）

Nagasaka et al. Pharmacological inactivation of the primate posterior insular/secondary somatosensory cortices attenuates thermal hyperalgesia. *European Journal of Pain* 26: 1723-1731 (2022)

Nagasaka et al. Brain activity changes in a monkey model of central post-stroke pain. *Experimental Neurology* 323: 113096-113096 (2020)

連絡先：西丸 広史（医学部システム情動科学講座）
nishimar@med.u-toyama.ac.jp